

放送日 令和5年8月2日（水）
担当者 教育部理事 鹿野 秀一

おはようございます。教育部理事の鹿野秀一です。

今日は、今年3月の中学校卒業式で述べた式辞を紹介します。

私から最後となる願いを二つお話しします。

一つめは、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむ人であってほしいということです。

周りの人ができるようになったことを、自分のことのように喜んだり、頑張ろうとしていることを、全力で応援してあげられたら、どんなに気持ちいいことでしょうか。また、悲しいことがあったときには、一緒になって悲しんであげることができたら、どんなに勇気づけられることでしょうか。人はどうしても自分中心に考えてしまいます。でも、人のことを思い、周りを元気づけたり、一緒に悲しんだりする、それをできるのが、私たち人間です。そして、そんな優しい心が、人として一番大切なことだと思うのです。

二つめは「なりたい自分への挑戦」。

人が前へ前へと前進していこうとする力は、何をめざして生きるか、目的を持つことから生まれます。「こうなりたい」とその達成に向けて前進する。困難なことでも、決してあきらめないで挑戦する。「どうせ無理」に負けないで、「夢」を見失わないで、ひたすらに全力を注いでいけば、いつか必ず輝く未来を見出せると、信じています。

さて、職員のみなさんの「なりたい自分」「なりたい市役所」「なりたい北広島市」はどんな姿でしょうか？ 目標や理想を明確に掲げ、その達成に向けて仲間とともに挑戦する自分がいるのでしょうか？

私たちのなりたい自分への挑戦の先には、北広島市の、市民の、子どもたちの未来があります。それだけに困難ではありますが、やりがいがあります。

いつも市民の幸せを願い、不幸を悲しむ。そして仲間を元気づけたり、ともに悩んだり。そんな心を大切にしながら、職員みんなで新たな時代へ挑戦していきましょう。

放送日 令和5年8月7日（月）
担当者 消防長 三上 勤也

おはようございます。消防長の三上勤也です。

私は、昨年4月に消防長を拝命し、5月に東京都調布市にある消防大学校に入校し、消防行政に関する法令の基礎や消防長としての心構えなどについて学ぶ機会をいただきました。その中で最も印象に残ったのが、東日本大震災が発生した際、東京消防庁消防総監であった新井雄治氏の講義です。

東日本大震災では、たくさんの尊い命が失われたことに加え、東京電力福島第一原子力発電所に想定外の津波が襲い掛かり、電源喪失により、原子炉建屋が爆発し、大量の放射性物質が放出されるという事態が生じました。この事態を収束するため、国から東京消防庁へ応援の要請がありましたが、何が起きるかわからない危険と隣り合わせの現場に職員を向かわせることに、大きな決断を要したということでありました。

結果として、東京消防庁の職員は職務を全うし、無事に帰任することができましたが、一つ間違えると命を落とすかもしれない過酷な活動を強いられたそうです。

北広島市内において、大型の集客施設が開業しましたが、消防では、いつどこで何が起きても対応できるよう準備を整えています。災害が起きている危険なところに職員を向かわせることとなりますので、職員が安全に活動できるようにすることが、消防長としての私の責務だと認識しています。

近年は、自然災害が頻発化、激甚化し、繰り返し襲ってきています。東日本大震災以上の巨大地震の発生も危惧されています。

アメリカの原子力発電所では、全電源喪失による冷却不能を想定して、手動による各種装置の操作や持ち運び可能なバッテリーの配備がされているそうです。日頃からの準備がいかに重要であることを教えてくれています。

消防では今年度の運営方針を「消防力の充実と強化」とし、各事業に取り組むこととしています。市民や来訪者に安心と安全を届けるため、本市の消防がこれまでに培った知識と経験を活かし、可能な限りの想定外を排除することが、職員の安全な活動につながると考えています。

放送日 令和5年8月9日（水）
担当者 消防本部次長 小室 秀治

おはようございます。消防本部次長の小室です。

本日は、私たちの身近に起こる火災危険についてのお話をさせていただきます。

令和4年に全国で発生した火災では、原因の第1位は「たばこ」次いで「たき火」、「コンロ」、「放火」、そして「電気機器」の順となっています。

この中で、ここ数年原因の多くを占めるようになってきているのが「電気機器」です。

昨年、全国で発生した電気機器火災のうち39件がバッテリー自体の不良によって発生したものでした。

バッテリーと言いましても、パソコンやスマートフォンなどで使用されている「リチウムイオン電池」と言われているものが主なものとなります。

私たちの身近にあるリチウムイオン電池ですが、注意しなければ大きな事故に繋がる可能性があります。

まず、充電ができない。電池自体が膨張している。さらには、強い衝撃を受けて変形している。などの症状がみられる場合、電池内部でショートが発生させることがあり、最悪発火に至るケースも報告されています。

このような時にはすぐに使用を中止するなどの対応が重要となりますが、詳しいリチウムイオン電池の注意点や事故事例につきましては、市ホームページにも掲載していますので、一度ご覧いただければと思います。

近年、私たちの生活は便利になっている反面、思いもよらないような事故も起きています。私たちの命や財産を少しでも守れるよう、消防では住宅用火災警報器の設置を強くお願いしています。また、現在、住宅用火災警報器を設置されているご家庭につきましても10年毎の取替えをお勧めしていますので是非ご検討をお願いします。

放送日 令和5年8月14日(月)
担当者 消防署長 和知 真人

おはようございます。消防署長の和知真人です。

私は、消防の災害対応部隊の舵取り役を任され今年で2年目となります。

この3月にエスコンフィールド北海道が開業し、消防では昨年まで準備を重ねてきた様々な事を実践する新たな段階に入りました。大きな混乱などは発生していませんが、全く気が許せない毎日を送っています。

第6次総合計画3年目となる今年、私たち消防は、消防体制の充実、火災予防の推進、救急救命体制の充実を3つの柱として日々取り組んでいるところですが、昨年3名の市民が火災の犠牲となったことを受けまして、今年には災害による犠牲者ゼロ！を重点目標に定めて、災害対応を担う消防署が一丸となって取り組むこととしました。

また、増加する救急事案への対応強化に向け、救急症例をあらゆる角度から検証し改善に向けた取り組みを進めています。

さらに、まちの大きな変化への対応と安定した部隊運用のため、迅速・的確でスムーズな現場対応に向けた準備と訓練を重ねています。

今年度は、これらの取り組みを通して『だれもが安心して暮らせるまち』を支えていくことをテーマに、しっかりと旗振りをしたいと考えています。

まずは、市役所で勤務する皆さんの防災意識を高めることが重要です。皆さんから一番近い消火器はどこにあるのか、一番近い避難口はどこか、そこに至る経路に障害物はないかを確認することから、今日一日をスタートしていただきますようお願いいたします。

放送日 令和5年8月16日(水)
担当者 観光振興課 齊藤 香菜

おはようございます。経済部観光振興課の齊藤香菜です。

民間企業から人材派遣型の企業版ふるさと納税の仕組みを用いて市に派遣され、観光振興課の一員として働き始めて5か月以上が経過しました。

派遣元である生命保険会社とは異なる仕事の進め方や文化に当初は戸惑うことも数多くありましたが、課のメンバーをはじめ様々な方の支えもあり、市職員としての仕事にも慣れてきたところです。

市役所では新人の1年目として日々新たな学び・刺激を得ていますが、社会人としてのキャリアは今年で7年目となります。日々慌ただしく働いていると目の前の仕事にばかり気を取られてしまいがちですが、何のために・どうしてこの仕事をしているのか「本質」を捉えることが、どのような仕事においても必要であるとこれまでの経験を踏まえて実感しており、大切にしなければと思っています。

先日、4年ぶりとなる北広島ふるさと祭りが開催されましたが、10月頃まで観光振興課では、寒地稲作成功150周年記念バスツアーや、ツール・ド・キタヒロなどのイベントが続きます。

市民の方々をはじめ多くの人と関わる中で、自分自身もさらに北広島の魅力を知り、発信していくことが出来ればと考えています。民間企業から派遣されてきた自分だからこそ持っている外からの視点や感覚も大切にしながら、任期終了まで市職員の一員として精一杯業務に取り組んでいきます。

放送日 令和5年8月21日（月）
担当者 税務課 吉田 桃菜

おはようございます。総務部税務課の吉田桃菜です。

入庁式後のテレビ局からのインタビューで、「エスコンもこれから大きく変化していくと思うので、私自身もエスコンと一緒にどんどん成長していきたい」と、意気込みを語ってから、4カ月が経ちました。配属が税務課と分かったときは、「自分が納めている税金すらわからないのにはできるのか」と、とても不安でしたが、優しく頼もしい先輩方に教えていただきながら、一つ一つ知識を深め、毎日の業務を責任を持って取り組んでおります。

私は、生まれた時から北広島に住んでおり、北広島が大好きです。特に、心温かい市民の方々が大好きで、小学生の時に、川遊び中に自転車の鍵をなくしてしまい、動かない自転車を担ぎながら帰っていると、通りすぎた市民の方が「手伝うよ」と、家まで運んでくれたこともありました。

就職活動中に、他の市で働くか悩んだ時期もありましたが、今までお世話になった市民の方に恩返しをしたい、自分も市職員として北広島市をより良くしていきたいと思い、入庁を決断しました。

今はまだ、業務に関する知識や経験が足りず、上手くいかないこともあります。自分から多くのことを吸収し、市民の皆様や職員の皆様に信頼していただけるよう日々努力を重ね、エスコンフィールドと一緒に成長していきたいです。

放送日 **令和5年8月23日（水）**
担当者 **税務課 伊波 花**

おはようございます。総務部税務課の伊波花です。

4月に入庁し、5か月が経とうとしています。できることが少なく、一日一日を長く感じていた初めの頃を思い返すと、常にやることがある今の状況に、自分の成長を感じられるようになってきました。

入庁するまで、北広島に来たことがほとんどなく、北広島そのものについても、自分の担当する固定資産税についても、わからないことのほうが多い状況で、不安な部分が多かったのですが、周りの方々に助けていただきながら、日々成長できていることが嬉しいです。

就職活動をしていたときに、「コミュニケーション能力が重要視される」という話をよく耳にしましたが、窓口や家屋調査などの業務を通じて、改めて、コミュニケーション能力の重要性を感じています。自分自身がそうだったように、固定資産税について詳しくは分からない市民の方もいらっしゃいます。何がわからないのか、何を知りたのかを的確に聞き取ることで、市民の方々に寄り添った対応ができると同時に、自分自身の知識不足や理解を深めるべき部分の把握にも繋げることができると思います。

まだまだ勉強することは多くありますが、ここまでの学びを新たな学びに繋げ、より良い自分になれるように頑張っていきます。

放送日 令和5年8月28日（月）
担当者 福祉課 村本 彩希

おはようございます。保健福祉部福祉課の村本彩希です。

今年の4月に入庁し、福祉課の生活保護担当として勤務を始め、早5か月が過ぎようとしています。職場の環境には慣れてきたように感じますが、まだまだ分からないことや、覚えることが多く、周りの先輩方に支えてもらいながら日々の業務に取り組んでいます。

先日、私は「生活保護担当ケースワーカー全国研修会」に参加して参りました。研修では、よりよい援助関係を構築するための対人援助のコミュニケーションについて学んだり、事例をもとに適切な支援を検討するグループワークなどを行いました。

特に、研修で学んだ相手に寄り添ったコミュニケーションは、日々の業務において不可欠であると感じました。生活保護の業務は、様々な理由により、生活に困っている市民の方々を支える仕事です。生活保護を受ける方の抱えている問題は、世帯ごとで大きく異なります。その各世帯の状況に応じた適切な支援を行っていくためには、保護受給者の方々の抱えている問題や現状、意思などを把握する必要があります。だからこそ、保護受給者一人ひとりの言葉に耳を傾け、現状や将来に向けた希望などを話してもらえるような信頼関係を築くことが重要であると考えています。

市民の方々に寄り添い、信頼されるような職員を目指して、これからも日々の業務に励んでいきたいと思っております。

放送日 **令和5年8月30日（水）**
担当者 **高齢者支援課 奥澤 完偉**

おはようございます。保健福祉部高齢者支援課の奥澤完偉です。

完璧の「完」に偉人の「偉」でかんいと読むのですが、珍しい名前とよく言われます。聞き返されることも多いですが、鮮烈でインパクトのある名前だと自負しておりますので、ぜひ名前だけでも覚えていただければ幸いです。

さて、市役所に入庁してから早くも5か月が経ちました。入庁前は新たに社会人として過ごしていくことに大きな不安を抱えていました。しかし、私の配属先である高齢者支援課は義理人情に厚く、聡明な方々ばかりで、困った時はいつも手を差し伸べてくれます。職場環境に恵まれ幸せです。

また、私の業務は介護保険がメインです。これまでの生活で触れることのなかった介護の世界はとても興味深く、日本の介護現場を支える重要な制度であると感じています。日々の業務や電話、窓口対応のどれをとっても、ご本人やその家族の人生に関わる重要な機会と自覚し、真摯に業務にあたることを心がけています。

私はまだ、北広島市民としての経歴は浅いですが、先人たちの「受け継がれる意志」を継ぎ、市民や「人の夢」に寄り添い、これかから激化していく「時代のうねり」に順応していける「新時代」の職員となれるように、日々精進していきたいです。